

**キリストが すべて です。**

**夏「2023 年 6 月、7 月 と 8 月」**

**「主の剣、ギデオンの剣だ。」と 叫びました。 士師記 7:20**

私の周りにいる偶像礼拝をする仏教徒や神道の人々は、恐ろしいほどに盲目にされ、サタンに強く囚われています。どうか私と共に祈ってください。キリストが、靈的に盲目な彼らの目を開いてくださるように。神の真理は、彼らの盲目の心と思いにとって、あまりにも異質で、反感を覚えるものなのです。

1979 年、近所の男性にキリストのことを話した時、彼は自分の宗教的信念について語り、「虫一匹でも踏まない。先祖の霊が宿っているかもしれないからだ」と言いました。

1984 年、自宅近くの山道をハイキングしていた時のことです。切り立った崖と岩峰が連なる壮大な山並みの前を歩き、私はその中でも最も雄大で高い岩峰を見つめていました。農家の前を通りかかると、中年の奥さんが外にいて、私はその岩峰の美しさを口にしました。すると彼女はこう言ったのです。「あれが神です」。彼らは、その美しさゆえに、花や低木、ほとんどあらゆる植物を神として拝みます。なんと盲目なのでしょう。

つい最近、今年 5 月 26 日、70 代半ばの引退した女性教師 2 人に英会話を教えていた時のことです。そのうちの 1 人が「アメリカ人は食事の前に何と言うのですか」と聞きました。私は「多くのクリスチャンは、食事の前に神に感謝の祈りを捧げます」と答えました。彼女はそれに強い拒否感を示し、「私たちは、すべてを神だと考えています」と言いました。つまり彼女は、実際にはどの神にも感謝していないのでしょう。私は知っています。

もし彼女の盲目の目が開かれ、すべての良いものが創造主なる神から来ていることを悟り、悔い改めて神を信頼しない限り、死の日に何の助けもなく、永遠の地獄の炎からの救いありません。

「主よ、彼らの盲目の目を開いてください！」

同じ日の夕方遅く、私は家の前でミニトマトに支柱を立てていました。すると近所の人(元タクシー会社経営者)が近づいてきて話を始め、私がまだ知らなかった近所の高齢男性の死を知らせてくれました。そして彼は、亡くなった日本人男性の墓で線香をあげてほしいと頼んできました。それは礼拝行為です。特に日本では、亡くなった人(家族、親族、友人、知人)を拝みます。悪魔が彼らを神の真理に対して盲目にしているため、真理は彼らにとって無意味なのです。私は非常にはっきりと真理を語りますが、彼らにはそれを受け取る心がありません。

その翌朝(金曜日、5月26日)、ジュンコさんがレスキューミッションに来ました。彼女は89歳か90歳で、片足を墓に突っ込んだような年齢ですが、近くで偶像や線香などを売る店を今も営んでいます。2本の最新式の杖を使い、ゆっくりと足を引きずりながら入ってきました。孤独で、地元の人々からは厄介者として避けられているのです。私は「イエス様があなたを癒し、強めてくださるよう祈っています」と言いました。その言葉で彼女はすぐに帰っていきました。私がこの文章を投稿する前に、彼女はこの世を去ったと確信しています。

私は、主の御言葉をできる限り広く響き渡らせたいと願っています。最近、英語のウェブサイト([www.christ-is-all.us](http://www.christ-is-all.us))に「ラジオ説教音声」を追加しました。

説教は 12 分から 30 分ほどです。英語が分かる日本の友人の皆さん、ぜひ聞いてください。

どうか祈ってください。神がこれらの説教を力強く用い、説教が放送される時に「偶然」ラジオをつけていた人々、あるいは「偶然」ラジオが流れている場所にいた人々が救われるように。現在、アメリカで放送されています。2023-8 と 2024-1 の説教は、貴重な救いの証しです。

今、私は険しい山脈の麓にある自宅よりも約 4 度涼しい、軽井沢町の山中にあるレスキューミッションで暑い季節を過ごせることを感謝しています。軽井沢は夏の避暑地・観光地です。今年春に日本ではコロナ規制が大幅に緩和されました。そのため、虚しく迷った魂の群れが毎日ミッションの前を通ります。犬を最大 3 匹も乗せたベビーカーを押している人も多く、犬たちはおしゃれな服を着ています。人々は歩きながら絶えず写真や動画を撮り、「きれい」「かわいい」「すごい」「おいしい」「楽しい」「ワクワクする」といった虚しい言葉を口にします。肉の欲、目の欲、人生の誇りを賛美するこの「虚栄の市」が、通り沿いの小さな店々から容赦なく押し寄せています。この終わりの時代の世代は、世のものを追い求め、狂ってしまいました。

いと高き天からこの虚しい人類の惨状を見下ろしておられる全能の神に、すべての栄光があります。その中で、レスキューミッションは痛々しいほど目立っています。私は、神がこの虚しく滅びゆく魂の真ただ中に、灯台として私を置いてくださったことを、最大の祝福と特権と感じています。私が賛美し、説教し、印刷された命の言葉を掲げると、多くの人々は顔をしかめて通り過ぎます。しかし間もなく、彼らの誇り高い顔は地獄の炎に包まれ、終わりなく泣き叫び、歯ぎしりすることになるのです。その

事実を知ることが、私の心に彼らの救いへの深い憐れみを満たします。

クリスチャンの兄弟姉妹よ、あなたは日々周囲にいる多くの失われた魂に対して、どのような心を持っていますか。憐れみは、私を人間を釣る者とし、失われた羊を探させます。あなたも同じことをしていますか。それとも、やがてキリストの裁きの座の前に立つ時、彼らの血を自分の手に負ったままで満足しているでしょうか。

通り過ぎる悪魔の子らだけでなく、宣教師やその家族、特に半裸に近い服装の子どもたちでさえ、私に顔をしかめます。多くの日本人クリスチャンも私を避け、他の日本人クリスチャンに避けるよう忠告します。愛する主イエスよ、私は感謝します。これらのことが、私をあなたとの最も近く、最も親密な交わりへと導き、この地上で最も祝福された魂としてくださるからです。私は、世の称賛を求め、宿営の外に出てあなたの辱めを負おうとしない、世界中のラオデキヤ的クリスチャンのために、憐れみを願い求めます。

人々の永遠の魂を釣るためには、人々が流れている人生の流れの中へ、また人々が集まる人生の池へと出て行かなければなりません。8月、軽井沢のレスキューミッション前の細いアスファルト道は、火の池へ向かう偶像礼拝者で満ちています。大きな文字の祈りの看板を掲げ、声や音声機器を通して、私は彼らに悔い改め、救い主イエス・キリストを信じるよう叫び続けます。ほとんどの人は嘲笑します。年々、永遠の命の言葉に関心を示す人は減っています。しかし私の務めは、迫り来る御怒りから逃げるよう、忠実に警告し続けることです。

7月2日(日)、宣教師牧師ダン・ロバーツが、午前10時30分の礼拝で私に説教を任せてくださいました。彼の妻と成人した娘、他に4~5人が出席し、そのほとんどが日本人でした。なだらかな平原、美しい景色、遠くに山並みと活火山(浅間山)を望む静かな住宅地で、共に礼拝できたことを感謝しています。その後、その地域で屋外伝道を行いました。

7月下旬には、日本人牧師夫妻とその両親がレスキューミッションを訪れ、多くの文書を持ち帰って配布してくれました。感謝します。彼は教会を牧会し、夫妻は共にキリスト教系短期大学でも奉仕しています。神の祝福がありますように。

8月を通して、多くの人々がレスキューミッションを訪れました。ある日、中国人の男女が来て話をしました。彼らは自分たちがクリスチャンで、カンボジアへの宣教師だと言いました。私は、彼らが何度もカンボジアに入っていると感じました。私は「カンボジアでキリストを宣べ伝えるのはとても危険でしょう」と言うと、二人はうなずきました。多くは語りませんでした。そこに深い霊的成熟と虚栄のなさを感じました。福音のために命を懸けることが、このような霊的成熟を生み出すのです。主よ、彼らを守り、守護してください。

祈り、関心を寄せ、献金してくださる皆様に、神の祝福がありますように。神が豊かに祝福してくださいますように。

キリストのしもべ、          サム・ヤ・ビ-